印旛沼環境基金助成事業報告会にてオイコスの活動を発表

平成２５年度「助成事業成果報告会」は平成２６年１月２４日、印旛沼合同庁舎で行われ、オイコス小原事務局長が「花輪川の景観美化と環境調査」と題して写真、表を加え分かりやすく報告しました。これは後日オイコスの例会時にも報告され次年度への計画に反映されました。

今回の特徴は花輪川での放射線量・放射性物質濃度を測定、分析しデータを整理、考察を加えた点にありました。ここ２年間子供達の川遊びを中止していますが、安心して「川の学校」が再開できる環境を確認しようとの思いから放射線量の測定作業をして来ました。放射線量の数値は時間と共に低下傾向にあり、次年度は明るい見通しが持てるまでになりました。

他の団体の発表も小学生を参加させた自然体験、観察会など夫々特徴を出していたように思います。

全体講評では　１）活動が継続していて素晴らしい　２）データを他人にわかりやすく伝える整理の仕方に工夫を　３）後継者、若手の育成に一層の努力を　等のアドバイスがありました。　（島）

八千代市 1%支援制度へ
投票のお願い！！

皆様の投票により、昨年皆様が収めた市民税の 1%が我々の活動資金になります。今年も八千代オイコスへご投票をお願いします。投票期間は 5 月 15 日～6 月 30 日まで、詳細は広報やちよに掲載されます。

エントリーNO
25

《1%支援制度 PR イベント》
6月1日(日)13:00～18:00　イオンモール八千代緑が丘　アゼリア広場
１%支援制度に申請した支援対象団体が、プレゼンテーションとステージ上でのパフォーマンスを行います。八千代オイコスも参加しますので、応援してください。

どうぞよろしくお願いします！

編集後記

５月初め、新川の城橋から、印旛沼方面へのサイクリングに行ってきました。

ママチャリ３段ギアでゆっくりとマイペース。時々辺りの景色を見ながらよそ見の運転をしていると、反対方向から来たヘルメットをかぶっている小父さんから、「前を見て運転を」と注意されました。後ろからはお先に行きまーすと、スポーツサイクル車がビューと右側から抜いていきます。フラットな新川サイクルロードはウオーキング、ジョギング、犬の散歩、川べりでは釣りを楽しむ人々と、川辺の葦にオオヨシキリ、高木にウグイスのさえずり、青い空にはオオタカ？が舞い、水辺にはアオサギが餌を狙っていました、麗らかな光景です。空気は美味しく、千本桜の新緑、所どころに菜の花、芝桜、カキツバタ、等々道端にも可愛い景色が有りました。

道の駅で新川のゆったりとした流れを眺めながら、おにぎりを食べ、汗をかいた後の「抹茶味ソフトクリーム」が、格別な涼風を感じさせ、そして身体を通り抜けていきました。

爽やかな初夏をお届けします。（ＴＡＮＡ＝Ｈ）

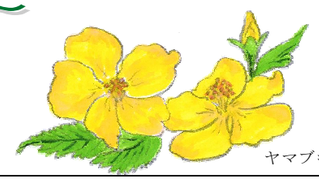
発行責任者：川瀬　純一　　事務局＆問合せ：小原　翔　☎：047-450-4663　mail：info@yachiyo-oikos.jp

～～よみがえれ花輪川～～

八千代オイコス かわら版

第 26 号

平成 26 年 5 月 15 日発行
NPO 法人八千代オイコス
http://www.yachiyo-oikos.jp/



印旛沼のあれこれ　**第 12 話　「いんば沼の文化とは＝景観を描く錦絵と写真＝」**

＜江戸時代＞

円応寺（佐倉市）には元禄１１年（1698 年）に作られた「富山八景」と云う古文書が保存されている。これは信斎、宗的と云う地域の文化人によって書かれている。

この書は赤松宗旦義和が安政 5 年（1858 年）に著した「利根川図示」によって「臼井八景」として紹介されるところとなった。また佐倉藩主　稲葉氏の家臣　磯部昌言は、享保 7 年（1722 年）に「佐倉風土記」を著しているが、この書は“印旛沼の景色は平地から観るものでない、葦や萩が眺めをさえぎるから、高台に登って眺めるのが良い”夕日に和む富士山を望むのは飯野の眺めであると記している。

一方、江戸と城下町佐倉を結ぶ佐倉道が整備され、さらに成田山信仰の隆盛によって、街道が成田まで延伸され、印旛沼は街道の景観の一つとして往来する人々に認識されるようになった。安政 5 年（1858 年）には、中川台（酒々井町）より印旛沼を望む場所として、良好の景観と認識され、印旛沼を地域の人ばかりでなく、江戸に住む人にも広く知らしめた。

＜明治・大正時代＞

印旛沼は錦絵や写真によって広く知られていく。明治元年（1868 年）に*橋本玉蘭貞秀が臼井方面から印旛沼、佐倉方面を鳥瞰した錦絵には印旛沼に浮かぶ帆船や、遠景に筑波山が見られる。錦絵は成田山に参詣する人の土産になったことであろう。

一方文明開化のシンボルである写真機によって絵葉書も作られ、宗吾堂を参拝した人々に人気が有り、甚兵衛渡しの風景などを組み合わせた絵葉書が売られ、印旛沼を名所として売り出した証である。（田邊）

*橋本玉蘭貞秀(歌川貞秀)
　江戸時代後期～明治時代にかけての浮世絵師

資料：（財）印旛沼環境基金発行
「いんば沼　第 13 号、第 14 号」より抜粋　引用

オイコスの進化

今年も 4 月の訪れと共に八千代オイコスの総会が開催されました。2001 年 12 月に NPO 法人としてスタート以来の長きに亘る活動を続けて来ました。

人的に新たなメンバーの補充に乏しい状況の中で、組織のマンネリ化を防ぐ方策は、ある現代組織論によれば「環境の変化が激しく、又多様性にも富んでいる状況のもとで組織が継続していく為には、組織は絶えず進化して行かなければならない」とあります。

さてオイコスの進化とは・・・

私達は子どもに自然環境の意識開発を教育する目的での「川の学校」に取組んでいます。川を通じ水環境を教える為に、花輪川の湧出量調査・水質の検査を数年継続チェックしている。こうした事は我々自体が自然につながり環境の変化に対応している事になる。

また３．１１東日本大地震に端を発した放射能惨禍が我々に及ぼした影響は少なくありませんでした。活動拠点である花輪川の一部に放射能値のやや高い処が検出されました。(我々の計測活動による)

以来これを機に継続して放射能値の測定を実施。また放射能に関する勉強会も数回出席し、「川の学校」への対策を十分身につけて来ました。

一つごとを行うにも取り巻く環境の変化に順応し取組んでゆく事がオイコスの進化であり、組織の継続につながる事でしょう。　（オイコス代表　川瀬）

米づくり教室

今年は米づくり教室を開催します。

神久保の小規模な田圃で毎年、もち米を栽培しています。オイコスメンバーも最近はだいぶ慣れ、農作業もさまになってきました。そこで、今年から一般市民から参加を募集してみることにしました。市内から 6 家族、22 名が応募されました。米づくりは 4 月には「田起こし」と「シロカキ」、5 月初旬の田植え後は最低月に一度の「田の草取り」秋にはハザ架けの「天日干し」脱穀、籾摺りと作業が続きます。12 月の餅つきまで皆さんご一緒に楽しくがんばりましょう。(翔)

平成26年度活動予定表

月	日	曜日	項目
4	10.11	木.金	イオンデー
	12	土	オイコス理事会
	13	日	花輪川作業・総会
	19	土	菜の花エコウォーキング
5	3	祭	シロカキ(神久保田圃)
	5	祭	田植(神久保田圃)
	10	土	オイコス理事会(川の学校企画)
	11	日	イオンデー
	11	日	花輪川作業・定例会(第２日曜)
6	1	日	田の草刈り
	7	土	オイコス理事会
	8	日	花輪川作業・定例会(第２日曜)
	11	水	イオンデー
	16	月	川の学校チラシ配布
	下旬		ほたる調査開始
7	5	土	田の草取り
	11	金	イオンデー
	12	土	オイコス理事会(川の学校申込締切)
	14	月	花輪川作業・定例会(第２日曜)
	20	日	川の学校第１日目
	21	祭	川の学校第２日目
	30	水	ホタル調査(合同)
8	2	土	田の草取り(最終)ホタル調査(合同)
	3	日	ホタル観察会(石神谷津)
	9	土	オイコス理事会
	10	日	花輪川作業・定例会(第２日曜)
	11	月	イオンデー
	下旬		ホタル調査終了
9	6	土	イオンデー
	13	土	オイコス理事会
	14	日	花輪川作業・定例会(第２日曜)
	15	祭	稲刈り、米ハザ架け
	28(日)～		米脱穀、収穫
10	上旬		お米モミすり(配布)
	11	土	イオンデー・オイコス理事会
	12	日	花輪川作業・定例会(第２日曜)
	26	日	花輪川エコウォーキング
11	8	土	オイコス理事会
	9	日	花輪川作業・定例会(第2日曜)イオンデー
	11	火	イオンデー
	16	日	サポセン祭り参加
12	11	木	イオンデー
	13	土	神久保竹林竹伐り作業、忘年会
	14	日	花輪川作業・定例会(第２日曜)
	21	日	餅つき会
1	10	土	オイコス理事会
	11	日	花輪川作業・定例会(第2日曜)イオンデー
	22	木	印旛沼環境基金助成金活動報告会
2	7	土	オイコス理事会
	8	日	花輪川作業・定例会(第２日曜)
	11	祭	イオンデー
3	7	土	オイコス理事会
	8	日	花輪川作業・定例会(第２日曜)
	11	月	イオンデー

花輪川なのはなエコウォーキング

4 月 19 日（土）恒例の「花輪川なのはなエコウォーキング」が開催されました。

春の陽ざしに恵まれ八重桜が満開の中、遥々上高野から自転車に乗って緑ヶ丘まで来た男性や毎年ウォーキングを楽しみにしているという女性の方など、総勢 24 名の参加がありました。

緑ヶ丘の住宅地を過ぎ、花輪川最上流の湧水の噴出口を見学しました。湧水はきれいで、その量もかなり多いとのことでした。昨年秋の台風でがけ崩れがあり川が塞がり、氾濫したそうですが、すっかり修復されていました。オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ヤエムグラ、ホトケノザ、ハルジオン、ヒメジオン、フキノトウ、ツクシ、ムラサキケマンなど、多くの草花を観察しながらの散策でした。

花輪橋からトングとボランティア袋をもらい貞福寺へ、此処では戦国時代の歴史の話を伺い、花輪川～桑納川の落ち口までごみを拾いながらの散策でした。

花輪川の中には少し満開は過ぎたようでしたが菜の花が咲きそろい目を楽しませてくれました。土橋のオイコスの看板下にごみ袋を分別収集しました。あまり目立ったごみは無いようでしたが、15～6 袋ほどになりました。

今回はJ.ＣＯＭから取材に来られたカメラマンが収録に同行されました。どんな内容で放映されるのか楽しみです。初夏にはアジサイ、秋には稲穂とそれぞれに彩られ、四季折々のウォーキングを楽しめます。秋にも又、同様のウォーキングを催しますのでご参加ください。

（小原　克子）

▲さあ　出発！

▲ごみ拾いをしながら散策

▲桑納川オイコス看板

▲貞福寺で休憩

▲花輪川記念写真

J.COM で放映されました

風が強いものの晴天に恵まれ、緑ヶ丘を出発。途中、花輪川が顔を出している場所では、湧水自噴を 4 ヶ所確認、スタッフの説明に参加者も覗き込んでいました。道の両側は、春の野草がそれぞれに精一杯の花を咲かせての競演です。オイコス活動拠点近くで各人ゴミ袋を手にして、目的のゴミ拾いに精を出しました。やはり目につくのは空き缶のポイ捨てが多く、袋がかなり重くなりました。貞福寺で休憩タイム。吉橋城本丸址を見学、八重桜が満開で春はいいなと改めて思う。花輪川沿いのウォーキングの途中、大きな鯉が数匹見られ、参加者から歓声。菜の花エコウォーキングの通り、両岸が輝く黄色で目を楽しませてくれました。花輪川が桑納川に合流する落ち口を観察して、オイコス拠点に戻り、温かい牛乳と甘酒をいただき、皆さんリラックス。　代表の川瀬さんから、花輪川整備の状況、川の学校開催の趣旨などの説明があり、環境保全の大切さを実感し、解散となりました。(小林)